

行政視察報告書

山谷 清

去る8月2/日から22日にかけて登別市へ
 学校再生施設（のほろべの文化交流館）
 学校統合廃合の3学校施設再生の経過について
 登別市旧登別温泉中学校は昭和22年5月に
 創設され昭和39年には184人の生徒が在籍し
 ていた。昭和52年に現在の場所に鉄筋コンクリート3階
 で建築された。昭和62年に大規模改修されたが
 生徒数は減少。続く平成5年度には全校生徒24名
 と少く、今後生徒の増加の見込みもないことから翌年16年
 度より登別中学校への統合となった。市としてもPTAや
 地域住民との懇談会を設け、学校再生事業には
 行政、住民、民間の連携が必要とあり、PTAや地域
 住民等との懇談会12/11日開催された。結果、利用
 についての遺跡、考古学をテーマとした文化施設とした
 方向を示された。開校50周年登別温泉中学校を
 平成18年度に整備し平成19年6月よりオープン
 した。平成20年からは教育委員会と共催で体験学習
 講演会をヤマトにした。登別歴史、どきどきまつり
 を開催した。総事業費52.03千万円財源については
 平成18年/階部分のみ国の文化庁、北海道の
 補助金対象で残りの分は全て一般財源である
 国定重要文化財等保存整備補助金15.41千万円



北海道地域政策総合補助金 2,700千円まで
 である。2階の部分の利用は胆振教育研究所教員
 のための研修の場として、残りの部分(旧登別温泉中学校
 小学校、資料室貸館)として利用している見学は無料
 体験学習は有料、運営については市職員2名、臨時
 職員2名、体制 教育委員会が直接運営を行う、
 取組は施設のリフォームイベント、企画、体験団
 体の対応等常時管理を行う開館期間中は4月～
 11月までの8ヶ月冬期は、雪のため休館とする臨時職員
 の人件費は220万とあり維持管理費は平成27年度で
 326万とあり開館初年度の利用者数は平成19年
 1,712人(6~9)で平成20年は2,744人(4~11月)
 平成29年3,682人少すう場かしているリピーターが多い
 市外からも利用者あり、地域づくりは重要な要素であり、
 この建物は本年で41年経過し温泉地区の硫黄成分
 による損傷劣化の著しい、今後は雨漏りなどの対応
 が必要であると説明があった

本市も本年閉校となった旧登別小学校の再利用も
 この地区に方向を定めるべきと思う(博物館)として
 の考え方も活用が考えられる。

下水道について

下水道使用料の改定に至った背景は人口減少社会の本格化、節水意識の高まりと交差する施設更新、使用料収入は先細りになる将来は資金不足になる。今更には使用料の見直し必要性を検証、平成30年度の3年次3年度まで8年間の対象に使用料を算定し検証を行った。今後資金不足の3使用料改定の必須と判断し下水道使用料を上げることになった。上げ方には利用者である市民の声と専門家意見の把握が重要である。そこで下水道事業審議会を設置、市議会への情報提供、市内30ヶ所での住民説明会開催や広報の活用によるQ&Aの市民周知を1年間を渡り実施した。又市議会常任委員会所管事務調査を8回開催し平成30年1月1日改定し条例改定を6月定例会に上程した。使用料改定には市民の理解が重要であるとの説明があった。

市もこの対応を迅速にするべきであった。

以上